

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

LICENSED PRODUCT

Blue

1

2

3

4

5

6

8

9

10

11

12

13

14

15

17

18

19

3/Color

Black

A

1

2

3

4

5

6

M

8

9

10

11

12

13

14

15

B

17

18

19



特 別
 ~ 5
 1534
 5





此山集卷才五

更家

芍藥

一八

夏木色

餘花

芙蓉

柳花

牡丹

杜若

風煙素

青山柳

木蓮花

若楓

芙蓉

1534
1979
5

1534

特別

鹿山集卷中五



更衣

芍藥

一八

夏木立

餘花

菱花

卯花

牡丹

杜若

風煙菜

青山楸

木蓮花

若桐

葵

賀茂系

郭云

蚊

岩梨

謎花

螢

守人佛

夏菊

成山集卷中五

夏部

更衣

まともな母季のあつやをたぬ人

つとね若

あつとちかろうつじや若の衣人

あつやくすやこけらうらも人

あつきたるや一敷かんきうら又衣

あつとるやとけりのつたせは衣

花母ついで終のうやわん衆人

尾竹名郷島中宮
舎鑑

変ぬのこの妻うう衆人ころも吹

如所注
一書

妻と長とほいさ合せ意所期る

月

女とわるとまほしの衆人

心偏

婉妙くひそふよの地やむ人

良徳

出せよんお家もくうや衆人

長説

りありくおさういごぬちむる

月

牡丹

遊歌せは只牡丹花の盛ふか

獅子舞もせよ牡丹花むる酒

あや地うまけ月くのたる春

衆人の當女もやあらかんや

みくもくさりとつらくやう衆

所々母入い今まづりうやちの

牡丹花よ移じり胡蝶もあは

猶ほるけ牡丹母うらる日の氣
 ちくと咲花ハ嵐うらる草
 ちく母はまらる文珠の智あやわさ
 いやまらるけむらひらる牡丹
 花の王うらる垣乃じとけむ
 獅子母牡丹うらる地ノ王や花の
 八僧は胡蝶とまらるせとれノ王
 山王へまらる盛れ牡丹と

一宮
 後次
 物類

花の王や舞くふもとせむし
 後なる母あひゆせむら花の王
 雨の足て踏い子凌つたれ乃王
 九重小垣屋のこえんちるあ王
 長を富中あふんや牡丹むむ王
 あひ又花大母似らる牡丹うら
 ちりまれ花ちる獅子に牡丹
 法不に成牡丹や富をまらる

中
 貞宣
 右
 少貞
 付之
 前
 吹白
 之
 之
 之

花んといふからあつた母をいふ
儀後

猫の目のまゝ牡丹乃露此たす
場苗名
二重次

花身此をいふ志らんがらん那
付田名
一重

花とあんで香けり昔のかた
大坂
夕霧

花のつり信やまらもな此王
和州
西武

花の香ふとあふ小蝶や孫と孫
森
保安

花のつくはふとあふつらつら
紀伊
賢次

花の家母のいふ花やまらつら
上保

花籠よとて海士小舟をいふ
幸丸
吉治

花のまゝや花と孫と孫をいふ
尾州
甚色

花のたのむやわさそをいふ
徳方
耕之

花のあつたきひてまをいふ
日
茂成

花のまゝ此獅子や牡丹のよをいふ
法州
枯正

花の蝶やまを富みの富貴草
徳方
之重

花の王とまをいふ富貴草
日
茂成

花のまゝいふ花を富貴草
日
後次

神農のちめ初めりや富を中 貞正

たぐりやこれの志ん王富治乃 不存

花壇とこころひらきや清博光 正信

書意の猫の紙ふすこ草留 政信

猫のさうりこころいそけり長 政信

ちくくさういそん牡丹の匂月

芍薬

花のつらん天やくの梅花

てりしよやさう志やく海

芍薬や根よりを花の薬

掃比せよ志やく花

芍薬のつじの流る花

花のさうんは清花

芍薬のむつかさ上 信

花のさうや目辛 信

きりさうふ刀と江戸 林麻

持とのくわ六天やく此花の膏

大坂右平 盛唐

為素のはなをいんどうり袋ふ

重玄

さくをといくもら出や気志

善次

花母由らふ方角志ん志

良和

瓶治やよ為素と生て垂

けつ母

花の教やんらん為素瓶治の

一心

一八

九筆やうふ一八乃花きり

未得

法花理り一八筆を花のひも

浄去奇して

一八の咳や九ふ此浄去奇

未就

杜若

我とあめさきさうり綺や杜若

水明こみくやあさび白よ花

わそこ家花やじうさ記杜若

一まに中ぬらんくともみくも杖あり
 泥りもよぬかつふうかよされ
 花と今河の月もかきつりさ
 ぬあまあくゆあや小池の杖あり
 異二三日のみうふ汗や杜あり
 くらふちよせば糸のかきつりさ
 扇もや折匂れあとうきつりさ
 つかよ花あいたくれを流さるる

後身と三河よ橋やかたの此
 風炉のねあみ出らぬ垢と杜
 三あまあや志はじい誰をかるる
 びくしきれ花糺るやうきつりさ
 雲の霞面したうかたよとら
 びく男あれや意者あ良よ花
 そいつあはは雲のうらかたよ花
 びくおれ人もてんかうかきつりさ

者田

お宣

留田

政信

貞吉

重宗

良保

舞列古海々木

伊人

未友考

若治

七段位大津勅系

ぬ丸

場新川

玄櫃

尾が大正に付す

政春

茶名茶十員

玄任

河列左井任

春首

六坂任梅山

保太

同

鐵工の信小野塚
本町の親屋

長松

香煙りやみわささうかよ花
格はうわふつとまきそそき杜あ
さうりぬいあつとをれそけかあつと
東路やみらしくささちるらあつと
花を今室中おそかあつと
杜あみるやあつとひも八つと
花のうちもけさやあつとあつと
大肉やこおつとこをみるさあ

風爐茶

風爐の炭もくつと茶碗やあ合

大海とけこかを風爐に茶入か 一系

山崎くそ茶の湯よ

増田市丸馬

風爐に掛茶とせらるはつと茶碗 宗後

梅やちくそ風爐おとまや池田 吉野

新茶付 甚切

甚切の茶乃かりや蓮華玉

三伏の夏切あわし大茶つ不

きく文字燕文字とちと新茶

文好じ新茶いじくおと志水

夏本を

じくあともあわめかから夏本を

夏味や美^エ福ち若花あわ

夏けくたつちと味や若花

女自新すの朱さむら夏本を

じくいしあまいさむら夏本を

月の息本下^カ御うさのちあ

若や川本若茶ハ新茶煮^カ磨

あうりしんと茶ら本す息^カ水

夏本をハ小枝もわあへす^カ水

二刀もやこ保みわら夏本を

全虫とる比同男ハ夏本を

少ききいあらしよあけい志ん^カ端

留

改行

友室

久

之忠

剛高

守貞

季次

大森とたつらとれ木の志け程

大森松山(白岩)
保左

表もくく夏さくおやちひ

室和

人凡の賢やまの奈れ梯の中

尾刈庭(尾刈)
河津

なやせとまの大原木の志きり

政春

玉露もたつら奈と新樹の家

新樹(尾刈)
三林

夏とつて森も三木れた

系行
三林

奈ら良地つ回んち柏の夏木より

七三末
三林

名め一ゆふ木の下園やとく

系行
三林

針の木れ後りや新乃葉

中井源(中)
則康

かき花みじやく後ふい

久信

云れ奈も志け目し一頂れ

利政

木の下れ園いくり梨の後り

葉(尾刈)
方成

う一系のお奈ら路とちる花

尾刈(尾刈)
吉云

鷲冠井良濃新電の念

定家うらとちひ楓いす後り

長頭花

百人一首講天の座り

云の葉は志もりの定家うら
そまうまの酒より目まじり花

凡 同

青山柳

時をうぬ木か〜まきや青山
じせくめと波たゆるち青山柳
かされても花をい同と然青山柳
沈籍う〜しとみるめそ青山柳

ト偽
友重
あ明
長花

餘花

卯月也心の花をさき付
懐若此余花やもらん家極
ま極は友の目也やもらん
風らるも花とちん分月水
花妙る卯月やもんの同月
奥美も夏は目てんはもん

木蓮花

定之

保友
正花
玄花

春とくは心なむと道の本道む

三友も成るる美

梅風

湯のふりて

ちみく谷わたりて思ふも本道

右後松山

保友

経漢樹めまうつとて嘆や本道

花素門

宗行

とちかりて海まの時の本道花

早まら

祐良

花一と名をささうりくまん素

丹羽無山

お初

連秋中も指や新式さくまんを

幾江は村を新

勝右

白ひとやひく花のわらん本道花

右後任

宗成

養花

はるひけりて守由此池の養花

右高

友意

まじりてひく名そのふたさ養花

右後

正次

若楓

春色もや夏ちりわらむとわ楓

ゆり風とらわお月のわら楓

吹風もよたうらや久きと若楓

勝純

秋の色とらんけとらひぬま

幸好

かろんもろいもふ余のまろい
まじりたるもやけこれ集乃ちの概
まじりたるもろいもふ余のまろい

飯沼

屋久

名鑑行

一男

子高

一室

中井

元信

卯花

盛つともく様もよと一もふ本

或寄也

卯花とやうもろいもふ余のまろい

卯花の晴ららうもろいもふ本
あつじもろいもふ余のまろい
卯花の鑑もろいもふ余のまろい
卯乃ち此鑑も鑑りし一繩目
恙なふ咳やうもろいもふ余のまろい
甲少てふ家卯の花也新町ら

伊右

正賢

卯花本此抄句

卯花まろいもふ余のまろい

一男

書わつぬ此花垣のよこ此竹

赤垣

ちり此の卯花垣やゆいあつとせ

定之

時と知書や卯花富士垣り

月

ゆしき枝いた散れちらり川ある本

伊人

箱板山や卯の花垣とせはる足

貞好

卯花やまもかんまら書の色

玄徳

とらふまとは明りハちるふた書

永吉

花母あつりり箱板の赤

ゆ吏

御佛も卯花小袖の生ま

苗憲

友れあふいさうりあつく書

宗利

花も志路一波の散れ川引る本

時長

おれは後らハ卯花もハかうの

忠政

富士道の内志るぬ書此山卯本

定之

卯の花此あつとせはるぬせ

収

灌佛母花とるゆ

いこりけやうし卯花の書

長茂

月ひげやゆひ付てとく卯鉢
 卯の花の志くかの夏此月うら
 中母あく何る白妙の卯木成
 卯此花ハ幾ほうとまきしうり
 雪月花一交母をとう卯木成
 同 同 同 同

養

物の字のつこいし養れう人ほと
 養母花括腸きいあふひる

花母あききあや物の乳養
 鉢乃は洋の劍のき流養
 うひとま母をよおおんり物
 養 養 養 養

糸

散養とより此日るれ成養後糸
 綱糸やほくゆすうり此御散養
 糸人のあれいおまうりうか
 質養ハ只養とともまうり糸
 同 同 同 同

今宮の御極へさうりすつり日

教珠やさうりのもよとさふ浮屠古本者色

三瓊の神系とてあふさうり別は別此の

瑞雲や眉かほくまに神奈古本今市

山崎のひれさうりや油つさ古本之勝

戀花

花ちさほむはまよくちまは紀伊小幡教政重

むとをさあさうりまけつれ歌方御座笑程

大友花を守護せよ目大我

興郭公目

ありとささくしとさよふた

佛檀かきんけいのほとがは

卯月来く孫うまもわ時

はくさく水鶴よあふか

名業せむ氏やさうりか郭公

る川まをいの子母とゆつこちを討ち
 何事かせんか酒の恥者と子親
 ちのつこりり柳花のちとくま
 比撥耳母落久つとるけ郭云
 天乃そや夜まふなりく子親
 耳のひくわ川まのや郭云
 田房うたふ喜似そりり海をた
 とのつん此田喜そりり海をた

るけくぬい下子此あまふの子親
 納人と法んりぬるそとや討ち
 ちたひかた十二夜にるけの城
 一息をたやちの給ぬぬ子親
 あひよく光家申一其の郭云
 又喜くくつわさひもんがらん
 若れ子有る給よあはそくま
 花菜母実やそりりこちを討ち

と病のれ情あつくさくし子親

牡鶴松といふ妻とみく

名母と似とあるそ松北本時鳥

あるといふ文字の無の字の子親

あり勢うの一度一句のかとま

勢といふ一宗名の海そお流

中さうけよ九夜三少く部云

成さし水鶴時不といふを部云

耳のうこそ時蚊母習合子親

出合りともよ勢よおりた

るけやるをわりやさうといは

たうそ名わそくさる山の部云

卯花母時やあう勢う部云

あ耳母一了名といは時鳥

三公よう一勢うれま

老老うそやあといは部云

五
廿
考此松よりの子の母と云ん
梅の爲母まらしと云いせよ部云
鳳凰の都の堯なりけり
子観日の此しなくの朝霞
かそきんを録こ出まきし
始はより終とまれとの都
字さくやふのわりやま部云
約骨此約骨もつくやがた

思ふ人も物とつふよ部云
夏やけり沙汰斗部云
けしひの無言此約のかた
月代のまともな系分子観
考此考の教よりつかきん
大なる大耳のせり部云
をこめわししけいとのちらよ
名へ行の都の世心部云

一、念むるまじの飛科部云
喜と云ふよ人市も立時為
字やうふうとの定耳子親
小登て字考やたしう時為
地獄と云ふやそ山がくは

季吟

[Faint bleed-through text from the reverse side]

初冬や唯我獨吟狂は
夏屋つら考やしくちく部云

玄時

元和

舟橋町云

舟橋く名案家の法よ時為
舟一約や一心不亂狂は

利政

天明

きりつるの者やと浪子部云

同

有的のつましくおるまきや道子親

冬之季

初冬さん傳正の若れ部云

元

[Small vertical note]

みけのよとけのむけの部云

姫路住園有寺
政次

部云まきくや病もり人きと子

存
月

わきん鳴り柏の森れがれん

存
英あ

年いほるうるひのなれ子親

信
未得

村雨母名まき時高次への浦

信
政信

子親まきへ耳のわるるに成

尾所根由橋并
月

子枕のひらちや約よの部云

尾所根由橋并
毎冠

かき不動中まきけりは時高

尾所根由橋并
若行

一せいのほをまいわ人部云

若谷
貞利

清多身りて

若谷
若行

帰高へ山程ひをりておん

若谷
月

秘りちるせそ考とまの時高

純所高由三友
加友

奥耳母まきくや深山の部云

純所高由三友
定内

さうやむくほいそよめく時高

勝雄

常母子親の時とそ人の

中母来つときりふりう

ありさりのしむく

ありぬれをさかしたるをうきおふ

平尾小庵

同

天母啼て地へ入るとささよ部云

幸心

いふふもくちをたかしたる也時

大坂孫三

同

一ぢいといもわいのてころ部云

井上

定房

あつひおちをかきんけき子叙

末吉

正心

親するのしらくへつと啼部云

大坂仁

若活

出たれぬる女をうけよ時叙

下廣

夏舟留之わん全言をかたみ

江戸信竹舟半

空舟

夜啼せよそり森との子叙

江戸

康斗

本尊やせらぬけり部云

空舟

本尊とつつかはるその時叙

同

本尊八十二種も時叙

片桐

良保

命さぬそ作敷の中山時鳥

同

いせあめるくへけくきんとき

中川

長瀬

ちんくしと鳴るを井の子叙

名取

正左

郭公きうのいりらるる本家

勝之

おうまに忘れのさうひもかけ時

言法

一考ハカクしけり郭公

作意

繪けし鳴わがくまきの鳥

後次

あひるけりぬおく子親

松若

續く深きものりお字そ対鳥

恵昌

豫守とて

清の事かたしきとん豫守此端

永吉

ありそくやこうあり鳴ぬ子親

定利

病氣や一夜ハきうんけくは

必経

富士は雪もとまんの都れさう

安如

勢やとことめてせく山郭公

剛吉

響りさうらたきけ鳴けくさす

月

一声やまに赤無三好とま

道三

字法とて

郭公ちのふ初声無又た初

月

醜翻多々同古都や延武 同

討子此奥ハクふまらき此子親 同

寺子今ナ御んそ海そきん 同

経教をわくむくまら此部云 威痛

為や少々門そりあハかおおん 同

勢うと動ともや終後高の時此高 友我

鳴も不也御中アモこ言之そ時高 乞屏

既想此想と考もあまたなわ子親 正思

例るるん此ハかん

是し侍りてな

掛よりんおんふらよき子親 同

しゑあわの紋や横かききと 保友

六孫だうりなけり思意の部云 同

あぬ此四字と下略を部云 一治

考と松の山脚そり子親 同

子親るひく本玉や法と三三 如友

卯の花をさかぬかきとるけ時

辰

るげ後此花まてしんそ子親

辰

若きぬハ破き左敷うほそま

辰

ありをるふすんやかぶん中補

辰

いこまらわの初うときつらう郭公

辰

郭公出るれとすら沙汰も亦

辰

うる島ゆふるけやいあはよ時高

辰

声のわや中き此表り子親

辰

人傳中時高と云是也

郭公まきく漫書花のころけ

辰

天母のしりふやや井此時高

辰

田舎てわかるといもうる郭公

辰

中きうけよ南きる此表の子親

辰

大佛とて

啼て人愛ハ耳塚がれん

辰

まうらわらうとまふりや中の子親

辰

松田初三

雪草

水鏡江三葉内

はらうま

金

江ノ中時高

江戸行白子

中時

楊列信冊利

若石

少くもさき置て孫りや時を
万病みきうん湯の山部云

空路云々

名のりこそらりり海に子親
よき越うとつる家や母の時を
菊を親世高越うや親じ子親
一くもや後母そんより部云
さる知つてあけ建松山かといふ

松川信舟思三

三三

大坂有森

友之

大坂有森川信舟

信舟

大坂有森

信舟

大坂有森

信舟

大坂有森

信舟

大坂有森

信舟

ひくとすりくもや泣危部云

大坂有森

信舟

かそんくけよ志やう母わうこ子親

月

部云くもやう父やう人云

月

実寺やなせ小傍あふ時の高

月

一果わけ箱根山かといきと

大坂有森

信舟

中身かけよ針とる川本お時高

大坂有森

信舟

は流る人き外おるけや子親

月

橋みき川と越うせよ能みん

大坂有森

信舟

去とく山勢やはらきとくまの

先

平物山
三上

都の約のりわらや氣絶夜

三上

昌休

きくやうふうわと計の子規

書之

祢とせし藤の宿よ都云

季澄

海女貝山北軟鳴やねおん

お約

いなりおきあくれたおあうら

正伯

都の叢や葉子の比乃都云

月

鶴乃たうらひあれ子規

王和

お家あるてとら久き平子

相

し元子

さわか山あけらわかくきとん袋

江台文子

三也

かそんけいさんびるわ時鳴

月

けららくくまわ鳴る新

良徳

お家のあふうそくや都云

教實野法云

永春

強念や柳のうさねる子規

清任田原

三也

祢とつよおのくねる鏡

瑞新川

玄徳

峯頂て鳴るかそき松原

さてハ松友の毛もわけあつて

大坂三馬 友後

あやうちめいれそよぢもあつて

云成

あまきいふ念の山もまき

江ノ坂中三馬 宗和

一せいの二せいのわけあつて

山田三馬 黄四

天下一ぢうとともちや部と

福井三馬 以長

部とのかそんや浪乃は沈没

清之

あまういせいのゆけ子親

高心

あんなれきいんは部と

西条

とらせらるゝ鳴きや鞠の音

彦州 友我

かきさくハ果敢あつて

年井八馬 易定

本尊さく耳のあらんも

月

あつてはらあつてはらあつて

元晴

子親あつてはらあつてはら

戒鑑

ともあつてはらあつてはら

不存

群あつてはらあつてはら

勝明

文字はあつてはらあつてはら

林麻

五
川うらさそそ志のたの部と

江戸本室
倉書

奥州松崎の孫奇と

和尙御承らしよ

源海シガの唱り一と志がうきん

夏は外と志きみ啼都るを

徳州本居氏
一入
江戸行止
政也

ま日にまらうりりるを部と

長頭花

卯花と世間とるけく時鳥

同

志やの交いそくさつり花海考

月

子観山と遠ありのうのみ

月

徳右志とくや志のん秋と致

月

夜のはげらら物さささる時鳥

月

介之推り入心かぬか

同

け夏の下子の業のほろ

月

句とまきそるけと思ふら

同

考の中此王を志丹の子観

月

塞王をまきうへ中流へん

同

鱒口やうの坂本の海へん

同

多能やう人の具の母

万物乃ち此名よりそ子親

同

時鳥もこのそ名をけりて

同

かよ今解代乃ちま郭と

同

蒼やうて勢せぬ水の時鳥

同

郭とまひじうあ念とら

同

先とひく不如歸とる葉の款

同

実たよや流乃の具儀子親

同

東寄やう

同

秘案とら知や美言時鳥

同

皆らとを耕とんり子親

同

郭とつんるふとらとら此國

同

やま入やうの神妻郭と

同

京やう人の数るけ子親

同

一 子親 日
 二 子親 日
 三 子親 日
 四 子親 日
 五 子親 日
 六 子親 日
 七 子親 日
 八 子親 日
 九 子親 日
 十 子親 日
 十一 子親 日
 十二 子親 日
 十三 子親 日
 十四 子親 日
 十五 子親 日
 十六 子親 日
 十七 子親 日
 十八 子親 日
 十九 子親 日
 二十 子親 日
 二十一 子親 日
 二十二 子親 日
 二十三 子親 日
 二十四 子親 日
 二十五 子親 日
 二十六 子親 日
 二十七 子親 日
 二十八 子親 日
 二十九 子親 日
 三十 子親 日
 三十一 子親 日
 三十二 子親 日
 三十三 子親 日
 三十四 子親 日
 三十五 子親 日
 三十六 子親 日
 三十七 子親 日
 三十八 子親 日
 三十九 子親 日
 四十 子親 日
 四十一 子親 日
 四十二 子親 日
 四十三 子親 日
 四十四 子親 日
 四十五 子親 日
 四十六 子親 日
 四十七 子親 日
 四十八 子親 日
 四十九 子親 日
 五十 子親 日
 五十一 子親 日
 五十二 子親 日
 五十三 子親 日
 五十四 子親 日
 五十五 子親 日
 五十六 子親 日
 五十七 子親 日
 五十八 子親 日
 五十九 子親 日
 六十 子親 日
 六十一 子親 日
 六十二 子親 日
 六十三 子親 日
 六十四 子親 日
 六十五 子親 日
 六十六 子親 日
 六十七 子親 日
 六十八 子親 日
 六十九 子親 日
 七十 子親 日
 七十一 子親 日
 七十二 子親 日
 七十三 子親 日
 七十四 子親 日
 七十五 子親 日
 七十六 子親 日
 七十七 子親 日
 七十八 子親 日
 七十九 子親 日
 八十 子親 日
 八十一 子親 日
 八十二 子親 日
 八十三 子親 日
 八十四 子親 日
 八十五 子親 日
 八十六 子親 日
 八十七 子親 日
 八十八 子親 日
 八十九 子親 日
 九十 子親 日
 九十一 子親 日
 九十二 子親 日
 九十三 子親 日
 九十四 子親 日
 九十五 子親 日
 九十六 子親 日
 九十七 子親 日
 九十八 子親 日
 九十九 子親 日
 一百 子親 日

情じ喜ハ夢みらく生そ部と 日
 弁ありそ天此うあそ部と 日
 たりそそやめんこの初着子親 日
 六月宮日れや耳う部と 日
 女着ひけ短乃細とや時の方 日
 耳ふふくよ蟬しりさき子親 日
 木の葉ありそ歳切とら部と 日
 女着ひけたふそ部と 日

泣毎くさひあつらふやをたふ
 子をたつとまゐんでさく人時
 子親無言た子つ天ま奇
 安耳のひらりとすらわ子親
 子とあふささうくこと世時
 美感うたのふ名あつら子親
 雲
 解とあつらふさくめ乱れあつら
 右とあつらふ元助とあらん

生る布蘇川のうらまは火
 雲乃火の焼き草母さふ雲
 色めちらり雲の波の花火
 芦の原の火車ひととまき雲
 うらうら火の苗まき火雲
 雲火の川乃激中の炎火
 水と火の相性をとよき雲
 みる顔と負えんの玉の雲

志也 沼は毛母より子 螢や 尋
わつと けり と ちよ ちよ ちよ ちよ の 螢
螢火の せつ けり 秋乃 多き 螢
と その かなる 螢 づつ の 螢
螢と 池の ぬる たく 火なる 螢
川 あり 母火 澄り とも なる 螢
螢火と 焚や 薪 穀の 螢
新は けの 螢も 舟の けり けり

冬へ けり けり 螢の 毛
螢火の けり けり けり けり
火と けり けり けり けり
白波の けり けり けり けり
我と けり けり けり けり
と けり けり けり けり
けり けり けり けり
螢火 母 けり けり けり けり

波のちけ舟多や火はけ川

螢火の我と我鹿病や花

火の袴きらわ螢も兵戸に

空をむらむといわら螢もひ

水もふ火花さるる螢も

二まこの舟は螢の火らけ

火花たちくるとなは螢の文

鹿の火での赤みもる螢も

夏も此流や螢の火は玉

螢火のまの居不乃わし

消てかりやよは螢火ひらの

濃川の河舟とせりて

火とともらや螢乃中も不

まうらむ死火とわら螢も

文字もまは鹿とけの螢も

ふゆの螢のけもこり

窓より花いよのちり此火の螢
 餓鬼をうて水と火とちり螢
 ちりところ螢ハ富のちり
 螢火のき寸さ此や五月
 螢夜人や火さるる水さ
 峠の肉入や螢もいさ
 玄人の母の遊善母
 螢たふ清一と何とん娘か

奥西第百七
 五三

螢火やまの木の橋姫へよ
 赤とまをまを螢やうんさ
 空活楊の仇女火もまを
 日入とくいさつと星ハ
 水の月と螢やうんさ
 ちりところ螢ハ火の
 虫たふ鹿のひげよまを
 雲此よあつていさ螢やまを好

水也
 酒成
 正泰
 宗清
 友正
 良保

火の二川ありや炎堂此字

左勝

水母ささくく火とかり神や

良和

川ちちわの秋流美此火の死

如心

神のつる水の堂のひのき

良和

くじ水母ささくく火の死

友接

小車やとすくく火もくく火

玄二

えりめり家堂や鹿の穴

威庸

里母ささくく火の死

重和

松と野より出来ても火の死

正和

人々えんつと堂へあり此火の死

樹也

三男と女あり此火の死

正傳

いかり火の堂へあり此火の死

在行

文司此火ととく火の死

友宣

質いれめくく火の死

一入

死堂をこれよすてやいぬの時

英傑

字流源因の堂母射の火と川

正成

同列研本作是也

くまなくと回ら螢や火の車

紀伊守之丞

正茂

酒の匂も出る螢やこら此鹿

名所

貞次

螢火と月さきこら此きり

か友

月とりやと螢いあんき園路

余りて葉

忠光

月の舟よたされくやぬ螢か

晴別始ゆ

三重

あり計もゆる螢やとこから

地

之と

浪の花を流入とるる螢か

定重

螢火と火のるると母の螢か

十傳

もえおの竹のまりの螢

大板林初

久清

もえとりふおの螢や焼鑪火

大板林

定房

火とまらひ中やわしん母の螢

中井

忠孝

是のやぐふいの螢野は

公孫瓚

重正

はさし神や螢の鹿此ひさの

新原

世好

統はてまおの螢てらさ

後任

日

文字のわし火とてくハ

大板林

助高

死螢照車の玉の車百合

大板林

孝安

名苗母くもく秀秋堂外

月

川結くこせり堂ハ庭中

貞悦

鏡食母え秋堂也星月夜

安通

水母く子秋ハ堂のひく

秋次

志小秋堂ハ心母也火外

海一

小車母堂の火もやうけり

正重

月入くはる堂の目まらる

一井

空居く階回てみる堂火也難

昌香

火と出くらん空居の堂外

宗孝

月と人のわく火乃出る堂外

孝庸

月と火れ多らんも為る堂外

正次

月らや伊とらんくさ堂外

漢成

夕豆母ひくハ堂小庭外

安部

堂火ハ書たと御く堂人の

寸川

字文の意母ひくハわく外

益

子母それら火もらん其也

深友

元とくしてさると侍考考丸

天皇友京 英隆

園の夜乃涼母まうとて螢うか

螢 備前姫江

れの内く蒲へ螢は火らりか

各 正在

とらと元ゆひら螢の火りか

江守 行外

有明やはまきさくこまもと螢の

徳重 孝

兼えらやあいの切ふお花螢

徳重 孝

各の虫と云題うて

柴垣母一とく花のほらるか 七葉重紀

杉川伊丹無為

うん火まらりあやと事とみ

元親

秩仙母とふ螢火やりの灯籠

徳重 孝

水母螢其もかんのひらりか

徳重 孝

兼へ螢蜂の菊まるとり明ら

徳重 孝

奥列うて

若し川やひくむらくと花螢

月

螢火の花籠とるまといま村

政深

伊らとやこまやひら花螢

正相

徳重 孝

二川つま花一螢とひよく

伊勢富田
秋心

多情しくみきハ螢ハひ情う如

尚ほ多事
詠玄

又殊ありのの初あは光や花

今伊勢村
重佳

猶光と伊とん田中の螢うか

大坂
秋心

水の河ら川むむあるる螢うか

系板
浦永

入相乃うのて螢は火おろふ

三秋

若とろくも秋う入螢のひて物

茶花
雪似

馳籠むも目とひううとるる螢

茶花
雪似

夜うりもとれ火へまの川は煙

梅前
重房

螢火も清ぬる水のとも草亦

梅盛

みつき身に鹿ゆくくや螢は火

秋意

涼さを秋かじりらるもよき螢

大坂
重治

螢とひもこやううハう能の糺

易処

火とれよと螢の鹿や志とこ

重宗

光る長う竹も螢は火のひり

成利

電光ろく火と岩る花螢

江戸道二河と云ふ

虫ハきの火や二河ぬらふから

集り集
法之

意最水くくふてハ死海なるか

中好
安野

勢もあつらん丹もろく飛雲

重刻

飛雲火と流を竹の煙ふ

江戸道
政巴

王けと光母もろくわく勢

長流

夏虫ぬ火とたらく星飛雲

月

摘り又云ん田北中の雲ふ

月

秋火そと多ういふくやふ

月

星もて少斗あらくぬ雲外

月

非ともてハ雲や風母志つと志

月

よの火くくともふれとも飛

月

火そり虫遊やゆげ飛飛雲

月

いこり水鶏非ふみくや雲

月

雲火ハ殺生ともぬいさり

月

雲火やわのさけ挿る

月

かろりのや磨の介此天火地火

ららぬ蒲と火るはとちるちり

堂がしと炭火の夏のまひ川

二条河内右近家やけり

一 聖自東清門迄

二条坊政殿の作とが

ありて

さふ事とちるまふの火る

まけの鹿のまぬ堂もまひ

よりの星や堂くもよりの

焼明の併のまふふや

乃口敷のひらく酒乃は

那波江と堂うたけりあ

百草の黒焼とまひ野の堂

夏をまひ挑焼う今宵死堂

ぬとくふとなつとく昔白蒲

同 同 同

同

同 同 同 同 同 同 同 同

山寺や字交志やみらるる

日

園ハ迷途めらるる堂や火草

日

かゝるる世に星とわいん回の

日

明星のつくらも出ら曇り

日

西へ曇花ハわらこのまん

日

政

政相やみらり母らるる

政を火ら忘流さるる

名をれと好むわら

珠のしら糸ハ流りて

蚊乃く久ハ園ゆら

蚊をなすれりもわら

夕母ハ死とこそ

蚊の起すとも

夕くともれり

さやうらりれとら家もち蚊性

寮入花の菌や前黄の蚊性

うらぬ福や蚊性もくくく人

そのとくやうせらそめく抗蚊也

蚊くららとけつるかハ蚊性も家

子そとを採ふ蚊性ハ布袋の袋

蚊を火ら指まは抗香煙うか

うとく人経き口方へ散めら野約

蚊性もよの餅けくもまの

蚊性の物くせつうとぬせんか

蚊性もきくうとけく柄うか

蛛の巣ハ糸よりれさぬの蚊性

蚊乃蚊ハくくをく人か文字ハ

孫川くくくをさきみくは蚊性

地水火風く蚊ハくはくもけり

蚊性もま付おせんタタきり

奥西 右橋 則重 正次 不休 貞忠 貞次 三永

尾州 紅別館 貞次 三永

蚊柱とわひまのあやも蜘蛛の

信田若志

政信

煙をくまはつらひをえまのうも

信田若志

定房

夏は夜ハ血とハ蚊とハ此の神外

信田若志

元晴

とら子母似ぬ怒と物とハ屋世蚊

青之盛三也

英茂

くひく母纏て我孫ん蚊帳うか

芝草子五七也

政真

喰はくくと毒をく蚊をくひまの

二条中清内府也

浅成

蚊柱やむめつ友川を流るる

大内了也寺

貞宣

蚊の餅どけくハ蜘蛛の夜食

夕翁

鉢入花ちる蚊柱や家さるる

掛川若志

安助

三つうねの中母あら蚊帳は生箔

信田若志

多紀

えんあたるる事なくハ之虫は怒

松田新海仁也也

盛徳

夏乃東は蚊ハちととるぬ園の

年井八七也

易定

蚊帳は進みよこ進まきつるんを

藏国信村也也

三徳

天道母蚊をくくくくくくも

錦費

元辰

少く入てハくく蚊をく其は煙

渡志

重正

くらの蚊を流る朝はくくく

尾崎

春盛

此の書はわが心とくまの心と

長頸丸

不殺生戒と

の之數とくまの心とくまの殺と我心

丸

はるくわの口をみせむはれ也

丸

一度三升寺めくたき

ろき結巴の法物經と

と劣一車と四の物と

たきりやお孫の心とるもらる

丸

あまの世の法中実らる

て余情の事と宗派の

もとりふ事われとそれ

と古事お用ひ侍ら

灌佛

くまの佛の衆生とくまの心

法求法

不存

感あるを自ら佛の生湯汁

令中

三尊のたきと卯月の日

長頸丸

三岩梨

五

五

花初にさあし志梨くそや腹か

信

政信

其菊

夏菊や木下下園の星月夜

守葉
尾別大か
三三政
情別非海

冬と秋もや三ゆり此蔞草

夏菊の四五月候ハ九月末

夏菊此測と漱とるそ目

床あわさしゆり

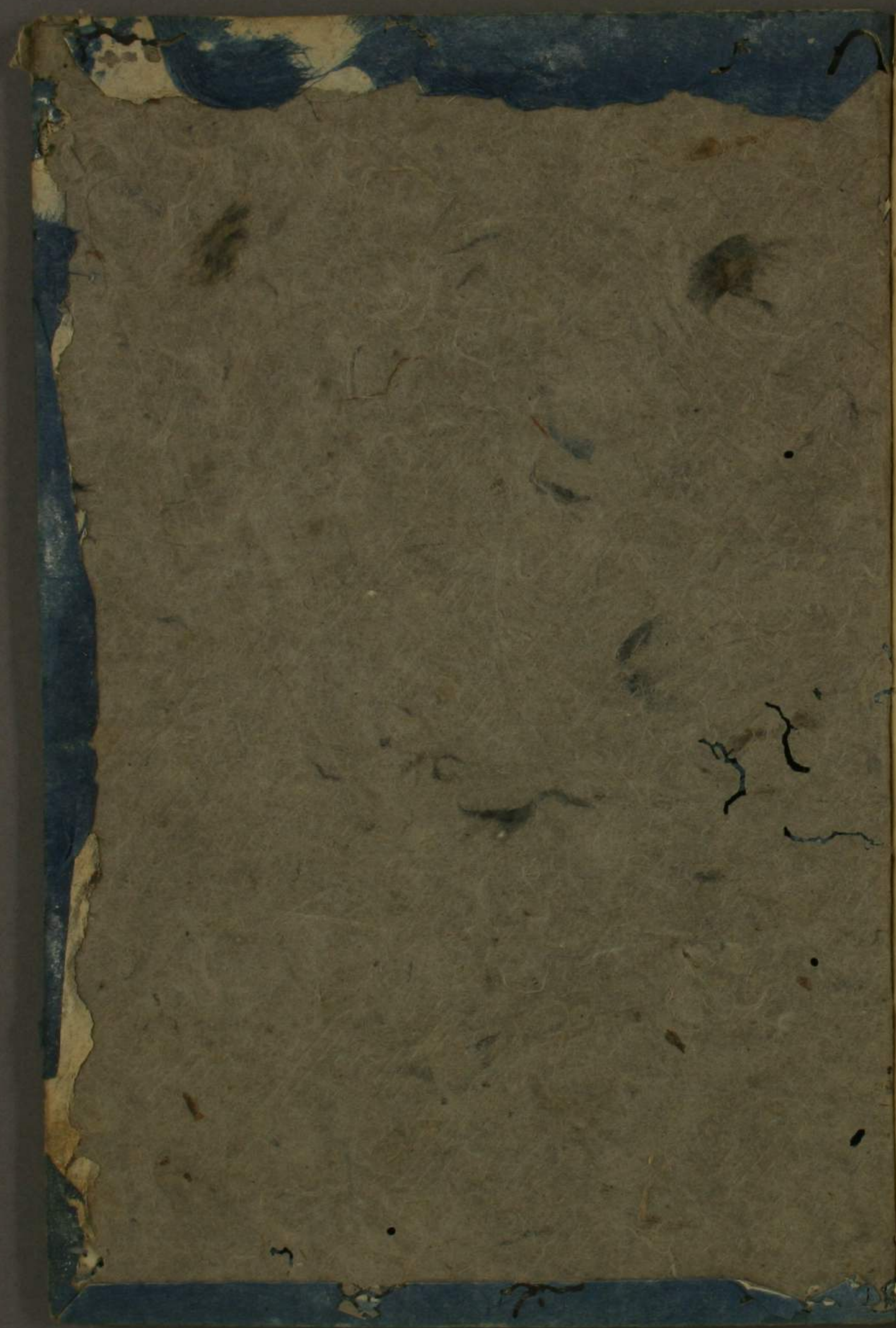
夏菊のあさ

長床の上あつけああゆり

夏菊やちりんの花乃中

名取丸

同



Handwritten text in a cursive script, likely in an Arabic-based language, is visible on the right page. The text is arranged in several lines and appears to be a title or a short passage. The ink is dark and somewhat faded, and the paper is aged and yellowed. The text is written in a fluid, connected style characteristic of historical manuscripts.

